

踏 み 跡 <My Mountains>

中央アルプス

千畳敷から木曾駒ヶ岳へ

No.209

「今年の夏休みの旅先はどこに？」部活等で忙しい娘たちと折り合いが付き、山歩き+アルファ ということになった。比較的楽に「花がきれいなところ」までたどり着ける場所として、中央アルプスの千畳敷を選び、その近くにある高遠・清里・原村などを巡る旅に仕上げた。この旅にはクマとウサギのぬいぐるみも同行し、そこかしこの写真に登場した。

家族同伴の旅はリラックスするせいか、あまり旅のメモをとらないことが多い。今この文章を作るにあたって、写真や資料などを見直しながら記憶を掘り起こした結果「こんな旅」と（何とか）仕上がった。

昭和63年8月9日 自宅→(京葉道路・中央自動車道)→茅野→杖突峠→高遠→駒ヶ根高原

まず最初の目的地は杖突峠。中央自動車道を諏訪インターで下りて、杖突街道のヘアピンカーブを登って1247mの峠で大休止。計画通り晴天の空の下に八ヶ岳の眺めを楽しむことができた。

次の目的地は高遠。谷間の高遠は暑いし、桜が咲いていない季節だと特別に高遠の歴史に興味を持っている人でなければさほど面白い所ではないかもしれない。高遠城や絵島の墓などいくつかの遺跡を訪ねたりはしたものの、中学生と高校生にとって印象に残るものであったか否かは不明。高遠を辞したのは伊那市へ出て駒ヶ根の町を抜けて駒ヶ根高原の民宿へ。

昭和63年8月10日 駒ヶ根高原→しらび平→千畳敷→木曾駒ヶ岳→千畳敷→しらび平→?

しらび平(海拔1661.5m)まで車で行き、食糧と着替えとカメラを持ってロープウェイで千畳敷へ。

8分もかからずに上ってしまった海拔2611.5mの千畳敷カールはさすがに蒸し暑さがなく爽快。(上左写真)

さわやかな空気の感触だが快晴の日差しはかなりきつい。伊那谷を挟んで向こう側に南アルプスが頭を雲に突っ込んでいる。千畳敷カールを登りつめて行くとカール上の大きな皿の底に千畳敷山荘が見下ろせ、(上右写真)やがてそれがガスの中に消えて行った。つまり千畳敷は晴れていたが、稜線はガスの中。



千畳敷から木曾駒を往復

辿り着いた駒ヶ岳山頂は残念ながらガスの中で展望は得られず。持ってきた袋入りのスナック菓子が海拔2956mまで登ってきたためパンパンに膨らんでしまった。ここで開けては勿体ないと思い、再び下界まで持ち帰ることにして他のお菓子を食べたような気がする。(下中写真)



ガスで何も見えなくなり、しかも気温も下がり始めた中を千畳敷に下り(下左写真)ロープウェイでしらび平へ下山し、この日の宿に向かった。(どこへ泊ったか忘れた)

昭和63年8月11日 ?→長坂→清春芸術村→原村ペンション

長坂の清春芸術村・清春白樺美術館を回った後、原村のペンション「ジョバンニの小屋」に一泊。

娘たちのリクエストに応じて「初めてのペンション泊り」。新しくきれいで、しかもアットホームな雰囲気よかったし、食事もまずまずだったように覚えている。

昭和63年8月12日 原村→八ヶ岳横断道路→清里→帰宅

八ヶ岳横断道路を走り、清里へ。清里でブラブラすることで、若い二人へのサービス。暑くてソフトクリームの美味しさだけが印象に残っている。帰る前に土産物屋を覗いていたら、近所に住んでいるTさんとバツ

踏み跡 <My Mountains>

タリ。清里が国民的観光地になったということだろうか。

以上

